



入場しての第一声は「おそろしいワ」

日本記者クラブ会報

第340号
1998年
(平成10年)
6月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 100-0011
◎社団法人 日本記者クラブ
☎〇三三五〇三二七二(二代)

好評だった岸恵子さん 七、八月に大改修工事

九八年度の通常総会は五月二十五日開かれ、前年度の事業報告と収支決算(十、十一ページ参照)を理事会案通り承認しました。例年ですとこの後、日本記者クラブ

賞の授賞式が行われるのですが、加藤理事長は本年度の受賞者がなかったことを報告、「来年は是非とも各社からの積極的な候補の推薦をお願いしたい」と強く要望しました。

また加藤理事長は、当クラブの施設活用を含めた「クラブ活性化案」について、関係各委員会の提言を踏まえて現在、総務委員会で検討中であることを特に発言し、「クラブ財政改善のためにも、各社は事業や催し物、懇談会でクラブ施設をさらに利用していただきたい」と、協力を求めました。

午後四時半からは十階ホールで岸恵子さんの「ヨーロッパと日本」と題した記念講演が行われました。ご承知のように岸さんは国連人口基金親善大使として活躍中、また女優として、テレビのりポーターとして体験された数々のエピソードを、鋭い社会時評も交えながら、ユーモアたっぷりに披露、二百五十人の出席者を魅了しました。続く会員懇親会でも特別参加の岸さんは、あこがれの人のツーショットを狙う会員で、もみくちゃになっていました。

すでにお知らせしている通り、七、八月の二カ月をかけて九階と十階の厨房を中心とするリノベーションを行います。二十二年ぶりの大改修工事で、この間、クラブ施設は事実上、閉鎖状態となります。五月連休にラウンジ側の工事を先行実施しておりましたので、ラウンジの喫茶、昼の軽食とバー

でのサービス、大・小会議室の使用は可能です。が、厨房が使えないため、パーティー等の部屋の貸し出しはできません。

そこで、アラスカの協力を得て、マリオン店から、最低限の軽食類および会議用の弁当を運び込むことにしました。弁当利用の、昼の小会合は大・小会議室でお引き受けできるかと思えます。

しかし、二カ月間の突貫工事のため、施設の利用時間は土曜並みの午前十時—午後六時となります。さらに、集中的に取り壊し作業を行う七月四、十一日の土曜日は全面休業させていただきます。

十階も原則閉鎖です。ただ、国賓級の会見など、どうしても行わねばならない場合に限り、ホールを縮小して開催します。アラスカは二カ月間、完全休業です。

会員の皆さんには、この間、大変ご迷惑をおかけしますが、これが精一杯の対応です。九月には一新、再スタートしますので、是非ともご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。

(専務理事 那部 吉正)

ク ラ ブ ゲ ス ト

N・バガバンディ モンゴル大統領

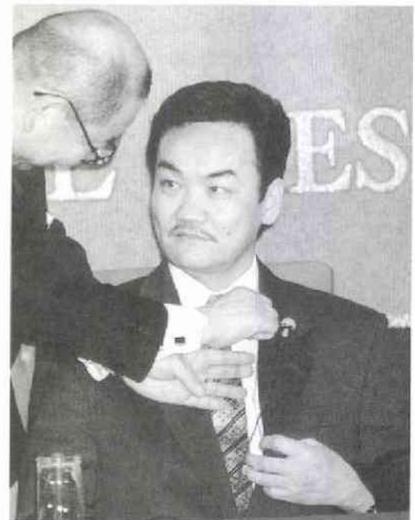
モンゴルの大統領が日本を公式訪問するのは、初めてである。九七年の選挙で大統領に選ばれたバガバンディ氏は四十八歳、ザブハン県の遊牧民族の出で、国会議長をしていた九四年について二度目の来日だ。

到着直後の十一日午後インタビューをしているので、十三日日本記者クラブの控え室でお会いした時は、話の合間に、遊牧の暮らしについてぎっくばらんに尋ねることができた。「大統領は羊の去勢ができますか?」「トールバル・システム(羊やヤギの群れを草場を求めて太らせながら数カ月がかりで肉コンピナートまで運ぶ遊牧システムのこと)はまだ続いていますか?」「ソ連との国境貿易で活躍したフブスグル湖の氷上馬権隊は今もがんばっているんです。うか?」

どれもモンゴルの遊牧草原の暮らしを追って十数年になる私にとって、は切実な事柄なのだが、公式会見でそんなことばかり聞くわけにはいかない。大統領もこちらの気持ちをおわかってくれたようで、どんなことで

もいちいち答えてくれた。家畜の去勢は、家畜の群れを統率するために不可欠の技術だ。「無論、できますよ」と大統領は言い、その答えからモンゴルが、遊牧経済と文化を骨の髄まで知る大統領を持ったことがわかった。

モンゴルでは二年前の総選挙で、民族民主党と社会民主党の二つの党から成る「民主連合」が人民革命党に圧勝し、エンフサイハン政権が発足した。しかし、一年後の大統領選挙で圧勝したのは、人民革命党党首だったバガバンディ氏だった。つまり、元首と政権が異なった基盤に立つ「ねじれ」の状態が続いているわけである。しかも、訪日直前、エンフサイハン内閣は民主連合内部の決定で総辞職に追いこまれ、新たに三十六歳の元新聞記者、エルベクトルジ民主党党首を首班とする内閣が発足したばかり。親日派の大統領として、橋本首相との間に共同声明を発表するなど実りの多い来日だったが、内政の多難はなお続くのだろうか。日本ではモンゴル・ファンが多い。



写真=共同

成田ーウランバートル直行便の就航、旭鷲山と歌手オユンナの活躍、大モンゴル帝国を作ったチンギス・ハーンへの関心などが背景にあるが、日本とはまったく別の生き方をしてきたモンゴルがどのように民主

化を迎え、突然あらわれた市場経済という怪物とどう格闘しているか、ほとんど知られていないように思う。

大志志向が強いように見える日本記者クラブのような場が、小さいが重要なものを発信しているこうした国々をもっと本気で取り上げてほしい、と思う。

読売新聞社編集委員

江本 嘉伸

5・13(水)記者会見 司会 住川治人委員 出席 12人

岸 恵子さん

総会記念講演

ジュン・アシダのページジュのスムーズにクリステイアン・テイオールの大粒の真珠のネックレス。岸恵子さんがホールに姿を現すと、満員の会場は不思議な幸福感で満たされた。

この日のテーマは「ヨーロッパと日本」。パリと横浜というふたつの町に自宅を持つ岸さんが見て考えた東西文化論かと思いきや、話はひたすら南へ南へと向かうのだった。

国の内外であまたの著名人や重要人物と会ってきたわが会員にとっても、日本を代表する女優「岸恵子」にこうして直接向き合うというのは、特別のものがあつたのである。

現在岸さんは、国連人口基金(UNFPA)親善大使として「南」の各地を歩いているところなのだ。今日一番言いたいのは、UNFPAの募金のPRなんです。娘のデルフィ

ク ラ ブ ゲ ス ト



「ヌ」と話していて思い浮かんだ「UNFPA一〇〇円募金」に、期待したほどお金が集まらないので」

そのためテレビ朝日系の「徹子の部屋」に出演して、一〇〇円募金をアピールしたそうだと。ところがそのとき、うっかりただ「一〇〇円募金」と言ってしまった。「あとで考えれば一口一〇〇円募金と言わなければ」

た。皆さん律儀にきっちり一〇〇円送ってくださる人が多くて。おまけに一〇〇円送金するのに、手数料が一〇五円かかるんです」(笑い)。

個所、溝が掘ってあるだけ。お互い丸見えのまきに「共同便所」だったとか。こういう話をさらりとするあたりが、岸さんの気取らない人となりがかがわれる。

それに「だから途上国は嫌なのよ」と「南」に行くのをやめてしまうのではなく、岸さんはまたまた出掛けでゆくのだ。思えば日本エッセイストクラブ賞を受賞した「ベラルーシの林檎」(朝日新聞社)を始め、岸さんの本の舞台は、かつての東側も含めての意味で「南」の色が濃い。生々しい生の現場を求めてゆくと、自ずと足はミナミへ歩くと、ということなのだろうか？

彼女のまなざしは、ゆえにパリでも「南」に向く。パリの人種差別反対デモの先頭に立つアフロ・アメリカンとフランス人のハーフの青年、ハーレム・テジールの話も出た。「彼の名前を訊いたら、ハーレムの希望です。なんてすばらしい」。

とはいえ、パリと横浜を年に何度も往復する岸さんの目は、日本人にも注がれる。「機内でステコ姿になって寝巻に着替えないで」というのが、ファーストクラスに乗り込んで

きた某国会議員への岸さんからの「お願い」。ため息が出ますなあ。

そして話は一転して、かつてパリの自宅を訪れた、往年のスターたちの思い出に。アル中気味だったウィリアム・ホールデンが、パーティーで酩酊がすぎて、突然頭からワインをかぶってしまったとき、同席していたオードリー・ヘプバーンが「あらおもしろそうね。私もやってみよう」と自分もワインをかぶってその場をとりなした、などなど……。

岸さんは、かつて訪れたハルトゥームで自ら書きつづった、奴隷として売られていったアフリカ人たちへのオマージュを朗読して、講演を締めくくった。親善大使の今年の訪問先はアフリカだそう。

朝日新聞社出版企画室員

中村 謙

5・25(月)総会記念講演 司会
加藤博久理事長 出席50人

★一口一〇〇円募金の送り先は「国連人口基金一〇〇円募金」。郵便振替は、〇〇一〇一五一一九六一九。銀行振込は、さくら銀行新宿御苑前支店、普通七〇八一八四六。

アリベデルチ ジャポソ

マルコ・ペロナーチ一等書記官が五月末に帰国しました。昨年の夏以降、ディーニ外相、プロディ首相、スカルフアロ大統領と続いたイタリア要人の会見を、プレス担当として準備してくれた人です。以下はそのお別れパーティーの席での取材から▼招かれた家で見えた部屋のシンプルな美しさがすっかり気に入って、ローマの自宅の一室を和室に改造することにしたと言う。タタミは船便で送り、フスマ紙も本格的なものを購入済み。ローマの業者に説明できるように、専門書を読み関連情報を勉強し、フトンも買いそろえたので、「家族四人で、和室」で眠るのを楽しみにしている」と。▼ローマ赴任を希望する日本の外交官は多いが、その逆はあまり競争率は高くないらしい。したがって、数年のちに再来日する可能性はかなり多いそうなので、それまでのお別れです。(石)

▽アセアン記者研修
参加者十二名(日本新聞協会 6・11、7・16)

バラバラ事件と鈴木書簡

岡村 和夫

四十六年前、一九五二年の話だ。前年NHKに入った私は、警視庁詰めの事件記者だった。

この年の五月上旬は、皇居前の流血のメーデー、早稲田大学の警隊導入と大事件が続き、いささかばて気味だったが、五月十日の昼過ぎ、足立区内の荒川放水路、日の丸プールに油紙に包まれた男の胴体が漂着した。

ところが、三日たっても、四日たっても男の身元は分からない。十四日の夜、前年ある事件で知り合った田園調布のK氏から電話が入った。「バラバラの身元を知りたいなら来い」

K氏は数百人の会員を集めて、病院に紹介する輸血業者だが、「私のところでもいつも血を売っている志村警察署の伊藤忠雄という巡査が、一週間ほど前から行方が分からない。血液型はA、肋膜炎のあとがあり、体毛はうすく、その他報道されている被害者にそっくりだ」と言う。お礼もそこそこに志村署へ。

幻の特ダネに「探知賞」

署長は、伊藤君は、きょう顔を見たとはけたが、何人かの同僚に取材して、伊藤巡査は八日から欠勤しており、身体の特徴はバラ

バラ死体によく似ている。酒の上の失敗が多く、女出入りもあった。板橋区内で小学校の先生をしている内妻との間は冷たかったことなどを聞き込んだ。

捜査本部は否定

したが、私は、バラバラの被害者は、伊藤巡査である可能性が極めて高いと判断して、十五日の朝のニュース用に送稿したが、デスクは二年生になったばかりの私の取材に不安を持ったのか、特ダネはあえなくボツ。

翌朝、気を取り直して、伊藤巡査の家を訪れ、出勤前の内妻と、同居している彼女の母親に会った。内妻は、「報道によると、バラバラ死体は今月一日ごろ殺されたというが、夫は七日の夜までいたのだから私の夫ではない」と言い、私があげた肉体的特徴も否定した。

私は、夫が殺されたかもしれないのに、何と冷静な人だろうと感心したが、まさか目の前の内妻が犯人とは夢にも思わなかった。

その夜、志村署の捜査係の部屋ににじり寄った私の耳に、声高に話す二人の刑事の声が聞こえた。

「奥さんをどこで見たんか」「中山道だ。長い荷物を自転車につけて、荒川の橋の方へ行つたそうだ」。

この会話と、内妻が勤務先の小学校から自転車を借りていたことを突き止め、犯人は内妻と確信して朝のニュースに出稿したが、慎重、確実に大原則とするデスクは、ついに内妻逮捕まで放送しなかった。

明けて十六日、待望の両手が出て、指紋から伊藤巡査と確認され、内妻と母親は逮捕されたが、NHK報道局長は、幻の二本の特ダネに対して、「伊藤巡査失踪探知賞」というのをくれた。

これは書いてボツになった話だが、もう一つは、書いて後味が悪かった話だ。

モサさんの訪中報告補遺

バラバラ事件から十年、一九六二年、私は政治記者として社会党を担当していた。

七月末、衆議院の議員食堂で、社会党の首脳クラス二人と雑談していた。

と、首脳A「モサさんの手紙、どうしたものかね」。首脳B、私を気にしながら「その話はまづいよ」。私「モサさんの手紙って何ですか」。二人ともいやいやとごまかす。

これだけ聞けば私も記者だ。その夜のうちに、社会党の元委員長鈴木茂三郎氏が、最近、河上丈太郎委員長に、「訪中報告補遺」という書簡を送り、この年の一月、鈴木氏が団長となった社会党の第三次訪中使節団が、中国側と発表した共同声明は、自分の本意ではなかったもので、この書簡を公表するよう求めていることが分かった。古い話なので少し説明すると、一九五九年三月、社会党の第二次

訪中団の団長だった浅沼稲次郎書記長（当時）は、北京で「アメリカ帝国主義は日中両国人民共同の敵」という有名な演説をした。

この演説は、政府、自民党、アメリカ大使館、右翼団体などから激しい攻撃を浴び、浅沼氏が翌年暗殺される原因にもなったが、実は、浅沼発言は、「アメリカとも仲良く」というスローガンを掲げ出した社会党にとってもお荷物になっていた。

左右両派の思惑からむ

鈴木元委員長は、六二年一月、社会党の第三次訪中使節団の団長になった際、浅沼発言の確認は避ける決意だったが、中国側は鈴木団長を棚上げして、党内最左派の平和同志会に所属する、細迫兼光、穂積七郎の両氏と折衝し、一月十三日発表された共同声明は、「浅沼発言は正しく、日中双方は浅沼精神を发扬する」という、鈴木団長には極めて不本意な内容だった。この日中共同声明に対して、自

民党は、党の統一見解を発表して、「社会党は中国の代弁者となり、重大な売国的行為をした」と批判し、夏の衆議院選挙でも、絶好の攻撃材料にした。

右翼からの脅迫もあったようだが、社会党内でも、共同声明は、あまりにも中国の言いなりだという批判がくすぶった。

鈴木元委員長としては、細迫、穂積両氏が、団長たる自分を差し置いて、中国側と勝手に折衝したため、こんな目に遭っているという怒りがだんだん高じて、参議院選挙の終了を待ち、七月十日「訪中報告補遺」という書簡を河上委員長に提出して、公表を求めたというのがこの問題の経緯だ。

河上委員長は、ごく少数の党幹部と相談した結果、この書簡を公表するのは、中国との信義に反し、党も鈴木氏自身も大きな打撃を受けると判断して、書簡を鈴木氏に返すことにしていた。

さて、事情は分かったが、これを報道するのは、党内左右両派の

対立・抗争というか、だれかの思惑に乗せられそうな感じがして、一両日ためらったが、某通信社の記者が追いかけていることを知り、八月三日の朝のニュースで、かなり詳しく報道した。

このニュースは、社会党内にかなりの波紋を巻き起こし、鈴木派の勇ましい議員に、「君は社会党をつぶす気か」と追い回されたが、「文句があつたらモサさんに言えよ」とお引き取りいただいた。

ほとぼりが冷めてから、最初にヒントをくれた首脳Aに、「私に書かせるつもりだったのか」と確かめたが、笑って答えなかった。



おかわら かずお会員 一九三〇年生まれ 五一年NHK入局 政経部副部長 解説委員 解説委員長を経て 現在 部外解説委員 八六年度日本記者クラブ賞受賞

書いた話 書かなかった話

「…今回の大統領選はこれまでの死者が三十余人と少なく、同国ではもつとも静かな選挙戦に終始し…」と、五月十一日に投票が行われたフィリピン大統領選の原稿を送りながら、私はそのあまりの様変わり感慨に浸っていた。

日本人の感覚からすれば、選挙で二ケタの死者を出すなんて大変なことかもしれないが、ちょうど十年前に特派員としてマニラに駐在し、アキノ大統領の下で初めて行われた総選挙を取材した私に言わせれば、まったく信じられないほどの減り方だ。当時は死者が軽く五十人を超え、政敵同士が雇った私兵の銃で命を落とす候補者も少なくなかった。まさに選挙はだれにも命懸けの戦いだ。

一方、あいも変わらないのが開票作業の遅さだった。民間選挙監視団体の「自由選挙のための国民運動」(NAMFRELE)はその名も「クイック・カウント」センターを店開きし、随分と期待をもたせた。ところが一夜明けての即日開票の集計はなんと開票率一%ちよつと。徹夜で何をやっていったの

ワーキング プレス

——比大統領——

エストラダ時代へ 期待と不安

▶ 千野 境子
(産経新聞社)

と、あきれられるほどに遅かった。

開票が長丁場になる理由を、私は記事で①統一選挙のため選ぶべき公職が多い②群島国家で集計が大変…などと紹介したのだが、実は真相は政治好きなフィリピン人たちがいつまでも楽しむためではないかと思っている。実際、地元記者たちも口では「遅いね」「困ったな」と言いながら、毎日飽きずに精力的につきあっている。私はお先に失礼して、翌十二日

の朝刊で「エストラダ氏優勢」を打った。最後の遊説となった地元マニラ首都圏サンファンでのエストラダ氏の集会を取材して、その熱気に圧勝を予感した。悲壮感さえ漂っていたデピリア前国防相の集会と対照的だった。

エストラダ氏は十年前の総選挙で上院議員に、九二年に副大統領当選と負け知らずだ。九二年の得票率は大統領当選のラモス氏を上回った。元俳優だけにキャンペーン用ビデオは大衆の心を憎いばかりにつかまえ、なかなか男前の若いころの映画のシーンからは、当時の人気が彷彿とされた。

英語が苦手。経済も弱いとの評がもつばらで、「APECで他の首脳と並ぶと恥ずかしいよ」と旧知の記者はいまから心配していたが、その前に国際会議は七月に地元マニラでASEAN外相会議がある。どのようなデビューを飾るか興味深いところだ。

確かなことはエストラダ時代は比メディアがさらに活気づきそうなことだ。大統領選報道もいささか書きたい放題だった。アンブツ



副大統領に決まったアロヨ氏(左)と握手(5.26)=AP/WWP

シュ・インタビューという地元記者の好きな言葉もひさびさに思い出した。日本で言う突撃インタビューか。高官にマイクを突き付けただけで、警察に連行されかねないシンガポールと雲泥の差だ。報道に熱くなるのは良いが、事実報道とともにもう少し節度も必要なのではないかとも思った。

投票日にサンファンで取材中に偶然、エストラダ氏の母親と長姉に会った。「人々に奉仕し、ベストを尽くせ」と励ましたそうさ。どうか六年、母姉の言葉を裏切らないでと私もひそかに期待しよう。

ちのけいこ 一九六七年産経新聞入社
マニラ特派員 ニューヨーク支局長 外信部長
論説委員などを経て 九六年からシンガポール支局長

朝日新聞の投稿のページ、「声」欄へ四月にきた。紙面は、ほぼ毎日同じように八本の投書と「朝日川柳」など定例のコラム。投書はいずれも似た行数で、見出しも同じ大きさ。地味な風情だが、その舞台裏で、それなりの波も立つ。

読者から強硬な抗議の電話が来た。問題の投書は、日韓の戦前の歴史に触れて、日本の「過ち」を謝罪するため訪韓したという内容だ。この種の論議への反発は予測できたから、掲載前のデータ確認に努力していた。抗議の電話に、こちらの細かなデータを伝えた。相手が納得していないことは、電話口からうかがえる。了解してもらうまで、やはり緊張した。

政治・経済から、暮らしの機微まで。「声」欄にはあらゆるテーマが押し寄せる。投書への反応も大きい。思いがけない波紋もある。お年寄りが、足腰の弱まった今も精いっぱい頑張っているという便り。その男性が、文中でちらっと書いた「ひざ用の強力なサポーター」に、高齢読者からの問い合わせが

相次いだ。「私は足が弱くて苦しんでいる。そのサポーターの販売元をぜひ紹介してほしい」。日本のお年寄りが歯を食いしばって生きていく姿が、見えてくる。

読者は、自分の生活の領域から、政治や社会を、驚くほど熱心に見つめている。新聞を大事な情報源として、たんねんに読んでいる様子が、文章から伝わる。投稿で見る限り、元気なのは主

——読者投稿欄——

切実な声の代弁者たち

▶ 大 山 俊 郎
(朝日新聞社)

婦とお年寄りだ。暮らしに結びついた消費税・医療・年金などの問題を、体験と実感から書いてくる。生活雑感も、味のあるものが多い。これに比べ、働き盛りの男性たちは影が薄い。文章も理念が先行しがちに見える。

こんな傾向が、がらっと変わる時がある。少年によるナイフでの殺傷事件や、ロックバンド「XJAPAN」のhideさんの自殺など、若者の心を揺さぶる事件が続いたとき、その年代からの投稿が急増した。ふだんは投稿しない彼らの、すっかりして見えずみずしい文体は、意外だった。

大蔵官僚の不祥事をめぐり、日本の政治システムを考える「声」特集をした時も、投稿者の層が一変した。今度は中年男性が前面に出てきて、じつと考えていたことを披露してくれた。この特集掲載の後、「女性の意見が少ないのは、ふがない。女性よがんばろう」と、ゲキを飛ばす投書が来た。やはり、女性は元気だ。

流が広がっていく場面に出あうのも、楽しい体験だ。着物の着付けを、国際文化交流に活用している人の体験談が掲載された。とたんに、「たんすに眠っている着物を差し上げたい」との申し出が相次ぎ、ある呉服屋さんは、高価な着物をたくさん提供した。悩みを訴える投書にも、励ましや助言の手紙がすぐに来る。人とのつながりと暮らしを大事にしたいという思いのなかで、「声」欄を見つめる愛読者が多いのだ。

朝日新聞の東京本社「声」欄には、一日に計百通前後の手紙やファクスが届く。採用率は一割弱だ。不採用の投書の中には、あまりに個人的な訴えや、極端な意見も少なくない。でも、そんな投書の奥にこそ、十分に整理しきれない切実な声がある。掲載される投書は、そうした声たちの代弁者だ。そう思いながら、きょうも投書の束をめぐっている。

「声」欄を舞台に、読者同士の交

おおよまとしろう 一九七一年入社 京都支局 大阪・東京整理部を経て 九八年四月から東京本社「声」編集長

ワーキング
プレス

「元気を出せよ、別府」——西の別府、東の熱海といわれた国際温泉観光都市がいま、不況にあえいでいる。ホテルや旅館の閉鎖が相次ぐ熱海ほどではないが、別府でも経営危機のうわさや映画祭などで全国的に有名になった湯布院へのシフトを計画している経営者の話などを聞く。

今年五月のゴールデンウィーク期間中の別府市内の旅館、ホテルの一日平均宿泊率は六二・七％で、前年を二・四ポイント下回って過去十年間で最悪。観光施設や交通機関が健闘しているのを見ると、「安、近、短」に代表される観光客の節約傾向を裏付けるとともに、別府の吸引力低下は否めない。別府の街からアジア人観光客が姿を消したのも一因。平松知事が鳴り物入りで誘致した大韓航空の大分—ソウル線が不振で運休に追い込まれ、県などの財政援助で何とか再開したものの、折からのアジア危機、韓国経済の破たんまで、低空飛行”している。

別府の地盤沈下は果たして不況によるものだろうか。温泉にあぐ

らをかいて、消費者ニーズや旅行形態の変化に対応してきたのか、という疑問が残る。

源泉数世界第一位、湧出量世界第二位を誇る別府市にとって、これからも温泉は「宝」であるはずだ。別府には鉄輪、浜脇、別府、観海寺、亀川、柴石、堀田、明礬

列島報告

—大分—

別府八湯 “独立”のススメ

利満広志

(大分合同新聞社長
経済部)

り方が衰退の要因とも言える。別府が昔のようなにぎわいを取り戻すには発想を転換し、温泉の「パート」ともいえる個性豊かな八つの温泉地を前面に出して売り出すべきではないのか。大分合同新聞は一昨年八月から、「個性豊かに八つの温泉——べ

つぷ八湯 独立のススメ」を連載。百回にわたって八つの温泉地を紹介し、温泉にゆかりのある県内外の著名人から「別府温泉の再生の道」を提言してもらった。

こうした報道が地域にも伝わり、八つの温泉地が、それぞれ独立した温泉地として再活性化しよう——という機運が市民レベルで出てきたが、肝心の行政の動きがいま一つ手ぬるい。今後も継続的に企画を連載し、別府八湯の独立を「ススメていく」ことにしている。

「地方の問題を掘り起こし、解説、評論し、世論を起こして正し

い方向に導くことが地方紙に課せられた使命。紙面でのキャンペーンは新聞の社会的な役割の出発点、行動を起こす原動力となれ」弊社の長野健社長のジャーナリズム論だ。別府八湯のキャンペーンも、こうした理念から出発したものだ。その域にまだまだ達しておらず、忸怩たる思いをしている。五月末から、第二弾の別の企画キャンペーンも始まった。風を起こし、遠大な目標に、どこまで迫れるか、悶々とした日々が続くそうだ。

(としみつ・ひろし)



百回にわたって再活性化キャンペーンを展開した

■ 会議報告 ■

第192回会報委員会

(5・13 小会議室)

五月号について意見交換したあと、六月号の編集を協議した。

出席 田村、秋山、伊波、和田、塚越の各委員。

第249回会員資格委員会

(5・13 小会議室)

六月一日付の入退会を審議し、理事会に答申した。

前回到引き続き、ジュニア会員制度の導入や法人賛助会員の入会問題について協議した。

出席 斎田委員長。北村、小谷、市

〈法人会員代表変更〉

名古屋テレビ放送

(新) 桑島 久男

代表取締役社長

(旧) 木谷 忠

テレビ朝日映像

(新) 小田久栄門

代表取締役社長

(旧) 出口 進士

村、船田、村上、玉川の各委員。

第267回企画委員会

(5・19 宴会場)

委員交代(民放連・森忠久氏から田場洋和編集部長)を報告した後、クラブゲストの選考について意見を交換した。

参院選連続会見のための小委員会を設置した。

出席 神塚委員長。宝利、立岩、春

名、福沢、神志名、追田、羽

生、菱山、田場、シーグ、浅

井の各委員。

第72回総務委員会

(5・25 小会議室)

クラブの活性化に関して検討を要請されていた会員資格、企画、施設運営の各委員会からの結果報告に基づき、協議した。

出席 杉田委員長。住田、斎田、田

畑、石川、浅野、酒井の各委

員。加藤理事長、那部専務理

事。

□ ゴルフの会 □

八年目の優勝に拍手喝采

快晴・無風、しかも今年一番の暑さというおまけつき——第71回ゴルフ会が五月二十一日(木)、池浦幹事のお世話により藤ヶ谷カントリークラブで開催されました。少数精鋭、選ばれた人々(?)十三人が、好プレー、珍プレーを競いました。

優勝は前専務理事の白木東洋会員(NET70 HC29)。大拍手に少し照れたような感じで、「事務局にいたころは、自分の立場を考慮し、かなり厳しいハンディキャップを自ら課していました。しかし、そのような配慮も不要になり、ハンディ改定もあったので、優勝は狙っていました。八年目にしてやっと手に入れた優勝



* 悲願の優勝を果たした白木前専務理事(右)

カップです」と。

なお、長年幹事をお願いしていた山本道雄会員が病気のため退任、新幹事として白木会員が選任されました。また、九七年度の決算報告も満場一致で承認されました。

幹事 日本プレスセンター

柿原 健

シラク大統領からお礼状

四月二十九日に会見したフランスのシラク大統領から加藤理事長あてにお礼の手紙が届きました(上)。訪日をしめくるのにふさわしい場所での会見が実現したことに謝意を示し、「日本人記者が流ちょうなフランス語で質問してくれたのが印象的でした」と書かれています。



第52回通常総会

5月25日(月)
クラブ宴会場

社団法人日本記者クラブの第五二回通常総会
は五月二十五日、出席法人会員三二社、委任
法人会員九九社、計一三二社の出席をもって

成立(定足数七五社)、定款第二三条により、
加藤博久理事長が議長となり開催された。
一九九七年度事業報告(前号既報)、同収支
決算ならびに剰余金処分を左記の理事会案ど
おり承認した。

剰余金処分

収支差額四、五六八万五、〇五七円のうち
退職準備積立金に 一、〇〇〇万円
資産準備積立金に 一、〇〇〇万円

議事終了後午後四時三十分から、岸恵子さ
んを迎えて記念講演会が十階ホールで行わ
れ、続いて五時三十分からは会員懇親会が宴
会場で開催された。

をそれぞれ九八年度予算に追加計上し、一、
五六八万五、〇五七円を繰り越す。

貸借対照表

1998年3月31日現在

科 目	金 額		
	円	円	円
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	6,837,186		
未収入金	11,453,756		
立替金	15,118,444		
前払金	13,384,619		
仮払金	200,000		
流動資産合計		46,994,005	
2. 固定資産			
内装設備	38,306,103		
什器備品	6,189,265		
敷金	32,271,109		
保証金	55,342,000		
退職準備積立預金	121,631,113		
資産準備積立預金	271,670,675		
クラブ賞積立預金	41,854,333		
特別積立預金	72,238,446		
増加賃料積立預金	52,223,825		
固定資産合計		691,726,869	
資 産 合 計			738,720,874
II. 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	1,289,500		
預り金	19,448		
流動負債合計		1,308,948	
2. 固定負債			
退職給与引当金	121,631,113		
資産準備引当金	271,670,675		
クラブ賞授与引当金	41,854,333		
特別引当金	72,238,446		
増加賃料引当金	52,223,825		
固定負債合計		559,618,392	
負 債 合 計			560,927,340
III. 正味財産の部			
正味財産			177,793,534
(うち当期正味財産増減額)			(-17,176,335)
負債及び正味財産合計			738,720,874

科 目	予 算 額	決 算 額
支出の部	円	円
1. 事業費	(253,266,100)	(244,618,246)
借室維持費	(197,506,100)	(196,994,750)
借室料	119,595,000	119,594,100
共益費	16,642,500	16,639,944
空調・光熱・水	11,268,600	10,760,706
ホール専用利用費	50,000,000	50,000,000
会議費	4,176,000	4,190,689
事業運営費	24,705,000	17,980,761
会報発行費	17,000,000	17,161,210
運営雑費	1,542,000	1,428,310
通信費	3,726,000	3,288,610
印刷費	3,351,000	2,855,816
交通費	1,260,000	718,100
2. 管理費	(164,043,000)	(161,847,055)
(1) 人件費	(134,605,000)	(135,893,247)
給与	78,196,000	79,239,396
賞与・諸手当	54,397,000	55,248,708
厚生費	2,012,000	1,405,143
(2) その他の管理費	(29,438,000)	(25,953,808)
クラブ管理費	21,286,000	19,027,182
機器備品費	1,200,000	289,380
消耗品費	3,004,000	2,792,031
事務委託費	3,036,000	3,012,780
事務雑費	912,000	832,435
3. 諸引当金への支出	(42,000,000)	(42,000,000)
(1) 退職準備積立預金	26,000,000	26,000,000
(2) 資産準備積立預金	16,000,000	16,000,000
4. 予備費	(11,035,900)	(0)
【一般会計支出計】	(470,345,000)	(448,465,301)
5. 特定積立預金への支出	(1,482,000)	(3,522,045)
(1) クラブ賞積立預金	381,000	1,529,460
(2) 特別積立預金	662,000	1,632,968
(3) 増加賃料積立預金	439,000	359,617
6. 諸積立金支出	(0)	(18,326,843)
(1) 退職準備積立預金	0	17,246,686
(2) クラブ賞積立預金	0	1,080,157
【特別会計支出計】	(1,482,000)	(21,848,888)
当期支出合計(C)	471,827,000	470,314,189
当期収支差額(A)-(C)	-30,000,000	-9,626,424
次期繰越収支差額(B)-(C)	25,311,481	45,685,057

1997年度収支計算書

自 1997年4月1日
至 1998年3月31日

科 目	予 算 額	決 算 額
収入の部	円	円
1. 会費収入	(379,232,000)	(376,710,000)
(1) プレス会員会費	(326,680,000)	(326,668,500)
法人会員会費	214,656,000	214,656,000
個人A会員会費	32,412,000	31,569,500
個人B会員会費	2,628,000	2,709,000
個人C会員会費	17,404,000	17,052,000
個人D会員会費	59,580,000	60,682,000
(2) 賛助会員会費	(52,552,000)	(50,041,500)
法人賛助会員会費	39,432,000	37,206,000
個人賛助会員会費	8,160,000	7,726,500
特別賛助会員会費	4,960,000	5,109,000
2. 事業収入	(57,899,000)	(58,934,965)
(1) 貸室収入	37,359,000	38,540,685
(2) 飲食売上割戻し収入	18,910,000	18,604,505
(3) 施設機器賃貸収入	1,630,000	1,789,775
3. 雑収入	(3,214,000)	(3,193,912)
(1) 預金受取利息		
(普通預金、退職、資産準備)	2,847,000	2,848,815
(2) 雑収入	367,000	345,097
【一般会計収入計】	(440,345,000)	(438,838,877)
4. 入会金	(0)	(1,010,000)
5. 特定預金受取利息	(1,482,000)	(1,312,045)
(1) クラブ賞積立預金	381,000	329,460
(2) 特別積立預金	662,000	622,968
(3) 増加賃料積立預金	439,000	359,617
6. 特定預金取崩収入	(0)	(18,326,843)
(1) 退職準備積立預金	0	17,246,686
(2) クラブ賞積立預金	0	1,080,157
7. 寄付金収入	(0)	(1,200,000)
【特別会計収入計】	(1,482,000)	(21,848,888)
当期収入合計(A)	441,827,000	460,687,765
前期繰越収支差額	55,311,481	55,311,481
収入合計(B)	497,138,481	515,999,246



懇親会
会員



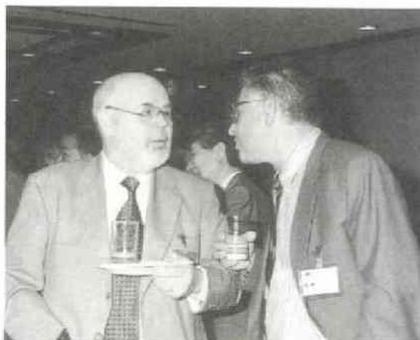
岸さんを囲む政治部の仲間たち——左から清原、小池、岸井、尾畑の各会員

総会、総会記念講演に続いて、五月二十五日午後五時半から会員懇親会が行われました。まず、加藤理事長が「米年の創立三十周年に向けて、夏に大改修工事が行われます。皆さんのご協力をお願いしたい」とあいさつ、出席者とともにクラブの発展を祈って乾杯しました。



加藤理事長（左）と談笑する竹内会員（中央）、川戸会員

その後、記念講演で言い落としたことがあります、岸恵子さんが登壇。淡いページジュのシックなスーツ姿で「私、いつも肝心なことを言うのを忘れてしまつて」と、講演で触れた「一口一〇〇円募金」提唱のきっかけを話しました。「国連の人口基金親善大使としてフィリピンを訪れたとき、ケアセンターに十九歳で八人目の子どもを出産したばかりの女性がいたので。こうした母親の健康を管理するのに、ひと月一ドルしかかからないと聞き、一〇〇円募金を思いつきました」。



二回目の東京勤務を終え近々帰国予定のロシア大使館のホホエフ会員（右）とヒールシャー会員

この日の出席者は二百十二人。各社の社長さんの出席も多く、あちこちで歓談の輪ができましたが、岸さんの回りは「大ファンだったんです」と恥ずかしそうに？記念撮影をしたり、照れながら？名刺を差し出す会員でいっぱいでした。（長谷川）

1口100円募金

からは、ほのBフ力る手の金の口座に
さん金の親会Oセ協め金の口座に
募金の新聞イ際務員基金
のた。日ジョ国際生会人口
寄せられた。毎日、計画理事千生人口
計34,643円。現在、(家族財団)尾崎美、国連人口
りまし。日、(家族財団)尾崎美、国連人口
翌で現在、(家族財団)尾崎美、国連人口
日、(家族財団)尾崎美、国連人口
「100円募金」入金されまし

この映画は勝者が敗者を裁いた一方的宣告に過ぎない東京裁判の欺瞞性を見事にあばき出した。その意味では画期的な成功をおさめたといえよう。

親しい軍事評論家によれば、ウェップ裁判長は帰国後、東京裁判は誤りであったと述べた。また強硬なキーンマン主席検事でさえ、五年後「裁判は全体として復讐の感情にかられ、公正な裁判ではなかった」と告白した。インドのパール判事の日本無罪論は有名だ。このパール判決文に同意する欧米の国際法学者や有識者も多かったが、我が国では、一部の有識者が知っているだけだったようだ。映画の法廷場面で、キーンマンと東条の対決では東条が優勢であった。年配の観客には心中、快哉を叫んだ人も多かったろう。戦争そのものが国際法上犯罪ではないという当然の常識が理解されただけでも、伊藤監督の意図は成功したようだ。だが、東条らA級戦犯を国民感情から無罪にできるかは疑問がある。戦争に踏み切った首相の責任はどうか。負けた場合、犯罪になるのではないか。「敵を知り己を知らば百戦殆(あや)うからず」は孫子兵法の説くところ。十分に敵を知り、自己の弱点を知っ

プライド～運命の瞬間

ていたか。古今東西の歴史上、敗戦の将は必ず罰せられたことなどを考えると、この映画は東条らの責任論を甘くしているようだ。

対独戦参入のため日本の参戦を誘導したルーズベルトのしかけたワナにはまった日本の首相は重罪に値するとの意見は根強い。一方、このようなきびしい東条非難論に対して、一、マッカーサー元帥は解任帰国後、上院の査問委員会で「日本の行った戦争は自衛戦争であった」と証言し、トルーマン大統領との会談でも「東京裁判は誤りであった」と述べた。一、著名な英国の歴史学者アーノルド・トインビーの「日本人が戦争によって歴史上に残した偉大な業績は、アジアやアフリカを支配してきた西洋人が「不敗の半神」でないことを明らかにした点にある。これが有色人種の志気に及ぼした影響は絶大であった」との論文などをあげて、戦後五十年を経て日本の大東亜戦争を容認する声がアジアを中心としてあがっている。これに関連して、日本でも東条再認識論、擁護論が出はじめている。この映画は以上のような時期に制作された話題作である。一般公開後の反響を見守りたい。

個人D会員 野田 皓一

試写会

クリントン大統領のセクハラ疑惑を先取りしたと話題になっている映画である。

もっともリアリティーはまるでない。いかにもアメリカ風のブラックコメディだ。

執務室での少女への性的イタズラがばれ、ロバート・デ・ニーロ演じるのみ消し屋が大統領の評判を守ろうと乗り出す。まずは「アルバニアに米国がB3爆撃機の出撃を計画」というウワサを流す。

B3爆撃機など存在しないにもかかわらず、小耳に挟んだ話を知ったかぶりして「B3爆撃機の件だが」と質問する記者。報道官が否定すると、かえって極秘計画があるらしいと疑惑は膨らむ。

このあたりまでは我が身を省みながら見ていたが、戦火の村を逃げる少女の映像を合成し、それをニュース番組がそのまま流すというところまでくると、「そこまでマスコミはバカじゃない」と、白けてしまった。

「ワグ・ザ・ドッグ」 ウワサの真相

いや、コメディを真に受けて観てしまってお恥ずかしい。もみ消し屋から戦争のプロデュースを依頼された大物映画プロデューサー(ダスティン・ホフマン)は、「アルバニア問題解決。CIAが確認」という報道が流れると、次の手を打つ。行方不明になった人質をでっち上げ、帰還支援運動を全国に盛り上げるのだ。

大衆の心をゆさぶる仕掛けが次々と功を奏する様子に、「愛国心」は、あおればいくらでも燃えさかるものだど怖くなる。おや、また真に受けてしまった。

朝日新聞論説委員

高橋真理子



◇個人D会員（五十音順）

プロフィール

五月一日付入会の個人D会員、法人・個人賛助会員の方々です。

写真部

写真 中島 正晶

(1983年読売新聞入社)
現在 東京本社写真部



代表撮影 (5.26 ロンドン市内で) —— 今回の訪欧には6社7名のカメラマンが同行した

後ろ向きに歓迎

天皇のご訪英は即位後はじめてである。エリザベス女王をはじめ、多くの英国人は歓迎してくれたが、元日本軍捕虜のグループの反応は強く、一部マスコミも冷やかだった。この度、天皇は英国の最高勲章のガーター勲章を受けられたが、タイムズ紙は「エリザベス女王の夫であるフィリップ殿下がこれに難色を示した」と報じ、これは後、王室が否定するということもあった。

五月二十六日、天皇とエリザベス女王が馬車でロンドンをパレードされた。大衆は歓迎したが、元捕虜の元軍人たちは行列に後ろ向きになって抗議の姿勢を示した。

よほど当時の日本軍の待遇に腹を立てているのだろう。これは日本も反省しなければならぬ。しかし天皇に抗議する元軍人の胸を見るとズラリ勲章が飾ってある。大英帝国植民地軍の誇り高き榮譽を示すものだ。これを見て思うのだが、旧軍人たちは捕虜への乱暴な扱いに怒っているだけでなく、日本が仕掛けた戦争の結果として、インド、パキスタン、マレーシア、シンガポール等が独立し、大英帝国が一介のヨーロッパの国英国になっってしまったことへの怨みつらみが気持ちの底にあるのではないか。

だが英国植民地軍もアジアの民衆にかなり悪いことをしていますよ。

(大谷 健)

七、八月 工事期間中の営業について

プレスセンタービルができて二十二年。九階のクラブ、十階のアラスカとも初めての大きかりな改修工事となります。ゴールデンウィークにラウンジ側の工事を先行実施いたしましたので、七月一日から八月三十一日までの間、以下のような形で営業できるようにしました。

厨房が使用できないため、アラスカはマリオン店から調理済みのものを搬入することになります。衛生上の問題にも配慮しなければならず、制約が多く、ご不便をおかけしますが、事情ご理解のうえ、ご協力願います。

*開室時間

ラウンジ 午前十時～午後六時

・レストランは閉鎖しますが、ラウンジで軽食を用意いたします。

・バー・喫茶はほぼ通常通りのサービスです。
貸室 午前十時～午後五時

・十階ホール、宴会場は使用できませんが、大会議室および小会議室は利用できます。

*七月四日、十一日は完全休業 両土曜日は、工事の関係でラウンジ側も入室できなくなりま

す。ラウンジ・バー、貸室ともすべて休業にさせていただきます。

*レストラン・アラスカ 十階のレストラン・アラスカは二カ月間閉鎖になります。

『新聞記者で死にたい』

牧 太郎 (毎日新聞社編集委員)

精神的、肉体的ストリップみたいな出来の悪い「闘病記」です。少しばかり、サラリーマン記者の誇りと哀愁も入っています。

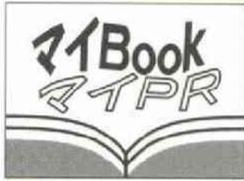
さて、どんな題を付けるか。悩みました。

友人の編集者は「ジャーナリスト」では売れない。「新聞記者」ではもっと売れない」と言います。

「新聞」は時代遅れ、と思いつつ「新聞記者」を選びました。

演歌です。怨歌です。少し艶歌です。

(中公新書 七二〇円)



『ジャーナリストの作法』

田勢康弘 (日本経済新聞社論説副主幹兼編集委員)

ジャーナリストは黒衣だから、自分のことなど書くべきではない、と先輩から教わってきた。だから有能な編集者から目次を見せられ書くように迫られたときは往生した。

「これからマスコミをめざす人に書き残してください」と三年間も言われ続け、もう断る言葉が品切れになっていった。そうかな、もう三十年もやっていられるんだものな、と自分に言い聞かせて書いた。できるだけ飾らず、素直な気持ちで書いた。読んでくださるのが若い人ばかりでないのが嬉しい。

(日本経済新聞社 一、四〇〇円)

ロッカーの荷物をお引き取りください

リノベーションのため、レストラン前のロッカーを撤去いたします。六月末までに荷物をいったんお引き取り願います。

訃報 野沢忍会員(常陽新聞社会長・66歳)が五月二十五日、多臓器不全のため死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員現況

法人会員 一五〇社 基本会員 八一四人 個人会員 一、八四〇人 法人・個人賛助会員 五六社 一八一人 特別賛助会員 五四人 名誉・功労会員 一五人 計 二〇六社 二、九〇四人

六月の行事(5日現在)

24日(水) 正午～午後2時 牛尾治朗経済同友会代表幹事昼食会

(行事案内電話) 〇三―三五〇三―三七六四

会報委員会

委員長 住田良能
委員 田村欣也 秋山民雄 伊波新之助
 桒邑義道 和田千年 塚越喜昭
連絡 長谷川和子・本庄五月
(電話) 〇三―三五〇三―二七二二
(FAX) 〇三―三五〇三―二七二二